

問7 線 「年ごろ」とあるが、これは具体的にはどの期間のことを言っているのか。次のように説明するとき、空欄A、Cに当てはまる言葉を、それぞれに字数の指定に従って文章中から抜き出しなさい。

「A」二字が「B」一字の任期の間、任国で過ごしてきた「C」四字ほどの期間。

問8 線 「日しきりに」とかくしつ、のしるうちに、夜ふけぬ」の部分を現代語訳しなさい。

A [] B [] C []

問9 この文章は『土佐日記』の冒頭の部分である。『土佐日記』は、作者をどのような人物として設定しているか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 土佐の国に在住の一地方官。
- イ 実作者である紀貫之の近くに待る某女性。
- ウ 土佐の国の国司を経験した紀貫之自身。
- エ 夫とともに土佐の国に赴いた紀貫之の妻。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

廿二日に、和泉の国までと、たひらかに驛立つ。藤原のときびね、船路なれど馬のはなむけす。上中下、酔ひあきて、いとあやしく、潮海のほとりにて、あぢれあへり。

問1 線 「たひらかに願立つ」とあるが、「願立つ」は神仏に

祈願をこめるという意味である。この場合、「たひらかに」を現代語訳する場合、「通りの訳し方が考えられる。次からその二つを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 心静かに。 イ 平穩無事であるように。
- ウ 淡淡と。 エ 無事に。

問2 線 「船路なれど、馬のはなむけす」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「馬のはなむけ」のここでの意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あいさつ。 イ 馬の調達。
- ウ 送別の宴。 エ 騎馬の侍。

(2) 「船路なれど」と表現されている理由として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえ船路でも、「馬」は旅に欠かせないはずだから。
- イ 船路に「馬」は必要ないとしゃれているから。
- ウ 船路でも「馬のはなむけ」は重要だから。

エ 船を使う旅には危険が付きものだから。

問3 線 「上中下」は、何の上下を言っているのか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 年齢 イ 背丈 ウ 居場所 エ 身分

問4 線 「あやしく」とあるが、この場合の形容詞「あやし」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 不思議だ。 イ 見苦しい。
- ウ 疑わしい。 エ みすばらしい。